

私のイスラーム観

徳増 公明



بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ ﴿١﴾

الْحَمْدُ لِلَّهِ رَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿٢﴾

الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ ﴿٣﴾

مَلِكِ يَوْمِ الدِّينِ ﴿٤﴾

إِيَّاكَ نَعْبُدُ وَإِيَّاكَ نَسْتَعِينُ ﴿٥﴾

أَهْدِنَا الصِّرَاطَ الْمُسْتَقِيمَ ﴿٦﴾

صِرَاطَ الَّذِينَ أَنْعَمْتَ عَلَيْهِمْ

غَيْرِ الْمَغْضُوبِ عَلَيْهِمْ وَلَا الضَّالِّينَ ﴿٧﴾

- 1 慈悲^{じひ}あまねく慈愛^{じあい}深きアッラーの御名^{のみな}において。
- 2 万有^{ばんゆう}の主^{あるじ}、アッラーにこそ凡^{すべ}ての称讚^{しょうさん}あれ、
- 3 慈悲^{じひ}あまねく慈愛^{じあい}深き御方^{おかた}、
- 4 最後^{さいご}の審^さきの日^ひの主^{しゅ}宰^{さい}者^{しゃ}に。
- 5 わたしたちはあなたにのみ崇^{あが}め仕^{つか}え、あなたにのみ御助^{おたす}けを請^こい願^{ねが}う。
- 6 わたしたちを正しい道^{みち}に導^みきたまえ、
- 7 あなたが御惠^みみを下^{くだ}された人々^{ひとびと}の道^{みち}へ、
あなたの御怒^{いかでか}りを買^かっていない人^{ひと}びと、また踏^ふみ迷^{まよ}っ
てもいない人^{ひと}びと（の道^{みち}へ）。

(クルアーン第一章のアラビア語と和訳)

日本ムスリム協会「日亜対訳注解聖クルアーン第16版発行」より引用。

はじめに

本書は私がかつてカイロのアズハル大学イスラーム法学部で学んだものを纏めたものである。また講演会等で話した時の資料を参考にして、編集したものである。最後に日常感じたことを記したエッセイ（随筆）と、日本国内の masjid（モスク）の一覧表、イスラームの葬儀、会報集（日本ムスリム協会会報より）を載せた。

次の10章からなる。

- 第一章 日本のイスラームの歴史
- 第二章 イスラームの特長
- 第三章 イスラームに対する誤解
- 第四章 イスラームに関する一般的質問
- 第五章 易しいフィクヒ（イスラーム法学）
- 第六章 WCRP日本委員会
- 第七章 エッセイ（随筆）
- 第八章 日本国内の masjid（モスク）の一覧表
- 第九章 イスラームの葬儀
- 第十章 会報集（日本ムスリム協会会報より）

イスラームに関心がある方のみならず、多くの人々に読んでもらえば望外の喜びである。

徳増公明（2024年11月）

はじめに	3
第一章 日本のイスラームの歴史	11
第二章 イスラームの特徴	19
1 - 一神教	
2 - アッラーに絶対的服従と感謝	
3 - アッラーとの個人的契約	
4 - 明瞭な教えで生活全般に亘る規範	
5 - 寛大で中庸な教え	
6 - 社会の秩序と治安を守る平和主義	
7 - 人権と平等と同胞意識	
8 - 家族重視と男女の役割	
9 - 貧民の救済	
10 - イスラーム共同体を理想	
11 - 教義の実践と不変のイスラーム法	
第三章 イスラームに対する誤解	31
1 - 戦争・紛争・テロ・クーデターの世界	
2 - 中東・イスラーム報道の転換点	
3 - メディアに「見せない戦争」の始まり	
4 - イスラーム研究の「困難性」	
5 - 「9.11」後のメディア規制	
6 - 急務の中東・イスラーム専門記者の養成	
第四章 イスラームに関する一般的質問	41
1 - イスラームとはどんな宗教か？	
2 - アッラーはどんな神か？	
3 - クルアーンとはどんな聖典か？	
4 - 預言者ムハンマドとはどんな人物か？	
5 - ラマダーン月にムスリムがする断食とは？	
6 - ムスリムが行うマッカ巡礼とは？	
7 - イスラームの喜捨とは？	
8 - イスラームの樂園と地獄とは？	
9 - シーア派とスンニー派の違いとは？	
10 - 豚肉が禁止されている理由は？	
11 - 飲酒が禁止されている理由は？	
12 - 女性の地位と立場は？	
13 - 女性の服装は？	
14 - 家庭と結婚について？	
15 - 人間の死について？	

- 16 - 一夫多妻をなぜ認めるか？
- 17 - イスラーム諸国で多発する殺戮や自爆テロは許されるのか？
- 18 - ハラル食品の必要性とは？
- 19 - ハラル認証の必要性とは？
- 20 - イスラーム金融とは？
- 21 - イスラームの結婚、離婚とは？
- 22 - 四学派とは？

第五章 易しいフィクヒ（イスラーム法学）…………… 63

(1) イスラーム教義の基本…………… 65

- 1 - イスラームの教えとは？
- 2 - イスラームの法規範とは？
- 3 - ムスリムが遵守すべき基本的義務行為とは？
- 4 - 信ずるとは？
- 5 - イスラームの六信とは？
- 6 - どのような天使がいるのか？
- 7 - 啓典にはどのようなものがあるのか？
- 8 - 使徒にはどのような人がいるのか？

(2) タハーラ（浄化）…………… 70

- 1 - タハーラとは？
- 2 - タハーラの方法は？
- 3 - 水の分類は？
- 4 - タハーラに使用できる水は？
- 5 - タハーラに使用できない水は？

(3) ウドゥー…………… 71

- 1 - ウドゥーとは？
- 2 - ウドゥーはイスラーム共同体だけのものか？
- 3 - ウドゥーをする時のワージブ（義務行為）は？
- 4 - ウドゥーをする時のマンドゥーブ（奨励行為）とは？
- 5 - ウドゥーの一般的な方法は？
- 6 - ウドゥーが無効になる場合は？
- 7 - グスルとは？
- 8 - グスルの法的根拠は？
- 9 - グスルする時の義務行為は？
- 10 - グスルする時の奨励行為とは？
- 11 - グスルに一般的な方法は？
- 12 - グスルを行った方が良い（推奨行為）場合は？
- 13 - タヤンムムとは？
- 14 - その法的根拠は？
- 15 - タヤンムムを行う時の義務行為は？
- 16 - タヤンムムの一般的な方法は？
- 17 - タヤンムムを行うことができる条件は？

18	-タヤムムを行うことが許される場合は？	
(4)	サラート（礼拝）	77
19	-サラートとは？	
20	-サラートがなぜ信仰行為の中で優先されるのか？	
21	-サラートの種類、法規範は？	
22	-サラートの法的根拠は？	
23	-サラートはいつ義務づけられたか？	
24	-サラートをする意義は？	
25	-サラートをすることによる成果は？	
26	-5回のサラートの時刻は？	
27	-サラートの時間を忘れて、睡眠してできなかった時は？	
28	-サラートの仕方は？	
29	-サラート・ル・ジュムア（金曜日の合同礼拝）とは？	
30	-サラート・ル・ジュムアの方法は？	
31	-サラート・ル・ジュムアの法規範は？	
32	-その法的根拠は？	
33	-一日5回の義務のサラートと異なる点は？	
34	-サラート・ル・ジュムアをする時刻は？	
35	-サラート・ル・ジュムア時の説教の内容において欠かせないものは？	
36	-イマームの説教の条件は？	
37	-説教にはスナ（奨励行為）があるか？	
38	-サラート・ル・ジュムアはマスジドで行わなければならないのか？	
39	-イマームが説教している時、他人と話をしてもよいか？	
40	-特別な理由なくしてサラート・ル・ジュムアに遅れてきて、間に合わなかった場合は？	
41	-サラート・ル・ジュムアに遅れて来たが、まだ、1ラカアト以上残っていた場合は？	
41	-サラート・ル・ジャマーアとは？	
43	-サラート・ル・ジャマーアの法規範は？	
44	-サラート・ル・ジャマーアの法的承認の根拠は？	
45	-アザーンについて：	
46	-アザーンとは？	
47	-アザーンの法的根拠は？	
48	-預言者ムハンマドには何人のムアズジン（アザーンをする人）がいたか？	
49	-いつアザーンが正式に始まったのか？	
50	-アザーンのやり方は？	
51	-アザーンの条件は？	
52	-アザーンがサラートの開始時刻以前に行われた場合は？	
53	-アザーンの後、サラートの前にマスジド（モスク）から出ることできるか？	
54	-イカーマとは？	
55	-イカーマのやり方は？	
56	-イカーマをする時のスナは？	
57	-アザーンとイカーマを同一人物が行ってもよいか？	

- 58 - 女性がアザーンとイカーマを行うことができるか？
- 59 - 種々なサラートについて：
- 60 - サラート・ル・タラーウィーフとは？現在では多くのムスリムがサラート・ル・タラーウィーフとして、20ラカアトを行っているのはなぜか？
- 61 - サラート・ル・タラーウィーフにおけるクルヤーンの特別な読誦方法は？
- 62 - サラート・ル・イードとは？その法規範は？
- 63 - サラート・ル・イードのやり方は？
- 64 - サラート・ル・イードの説教とサラート・ル・ジュムア（金曜合同礼拝）の説教との違いは？
- 65 - サラート・ル・イードを行う場所は？
- 66 - サラート・ル・ムサーフィルとは？その特徴は？
- 67 - その法的根拠は？

(5) サウム（齋戒）..... 95

- 68 - サウムとは？またその効用は？
- 69 - ラマダーン月のサウムの法規範とその始まりは？
- 70 - サウムの法的根拠は？
- 71 - サウムを成立させる必須要素は？
- 72 - サウムを成立させる必要条件は？
- 73 - ラマダーン月の初日はどのようにして定められるか？
- 74 - ラマダーン月の最終日の決め方は？サウムを実行しなかった場合、完成しなかった場合（すなわち無効にした場合）の償いは？
- 74 - サウムをやり直し、カフアーラを遂行する償いが課せられるのはどのような場合か？
- 75 - サウムをやり直す償いが課せられるのはどのような場合か？
- 76 - サウムを行う上でムバーハ（許される行為）は？
- 77 - サウムを行う上で好ましくない行為は（マクルーフ）は？
- 78 - ラマダーン月に事情があって飲食した者は、後にその日数分をやり直さなければならないが、その時期は？
- 79 - やり直さなければならないサウムを、もし翌年のラマダーン月までにできなかった場合は？
- 79 - サウムを行うときのスンナ（奨励行為）は？

(6) ハッジ（巡礼）..... 101

- 80 - ハッジとは？
- 81 - ハッジの法規範は？
- 82 - その法的根拠は？
- 83 - ハッジをするための必要条件は？
- 84 - ハッジ行事を成立させる基本となるものは？
- 85 - イハラームとは、ミーカートとは？
- 86 - ミーカートの場所は？
- 87 - イハラームをするときに行わなければならないことは？
- 88 - イハラームをした後の禁止行為は？
- 89 - 巡礼者が聖地マッカに入るとき、要求される行為は？
- 90 - タワーフにはどんな種類があるか？

9 1	- タワーフのやり方は？	
9 2	- サファーとマルワ間のサアイのやり方は？	
9 3	- アラファートの地にいつどのようにして立つのか？	
9 4	- ハッジ行事に必要なワージブ（義務行為）とその順番？	
9 5	- 死者や病人、または虚弱体質でハッジをすることができない人に代わってハッジをすることができるのか？	
9 6	- もし巡礼者がハッジの行事を完成せずに死亡した場合、ハッジは無効になるのか？ 遺体は？	
9 7	- イスラームの犠牲とは。それはいつから始まったか？	
9 8	- その法的根拠と法規範は？	
9 9	- 犠牲の条件は？	
1 0 0	- 犠牲に捧げる最適な家畜は？	
1 0 1	- ザバハの意味は？	
1 0 2	- ザバハのやり方は？	
1 0 3	- ザバハする人の条件は？	
1 0 4	- ザバハの行為が有効であるためのその他の条件は？	
1 0 5	- ザバハをするのに使用される道具は？	
1 0 6	- ナイフはどんなものでもよいか？	
1 0 7	- ハラル・ミートにならない肉、食べることが禁止されている肉は？	
(7)	結婚	113
1 0 8	- イスラームにおける結婚とは？	
1 0 9	- 結婚成立の基本は？	
1 1 0	- 申し込みと承認のやり方は？	
1 1 2	- 結婚契約の条件は？	
1 1 3	- 後見人の条件は？	
1 1 4	- 女性は後見人なしでは自ら契約できないのか？	
1 1 5	- 法的な後見人になれる人は？	
1 1 6	- 結婚はムスリム（男性）とムスリマ（女性）同士でなければならないのか？	
1 1 7	- マハル（結納金）は結婚契約時の条件か？	
1 1 8	- 結納金の最低額は？	
1 1 9	- 結婚後、別れた場合、子供はどちらがひきとる権利があるか？	
1 2 0	- 父親は娘の同意なしで特定の男性と結婚させることができるのか？	
1 2 1	- 結婚する男女の対等性は？	
1 2 2	- 結婚後いかに妻と仲良く生活していくか？	
1 2 3	- 夫に対する妻の権利は？	
1 2 4	- 妻が不誠実な性格で、夫を傷つけることを言い、夫に不従順でほとんど夫の言うことを聞かない場合、夫はどのように妻に対応すべきか？	
1 2 5	- 夫や妻が夫婦間の秘密を漏らすことは？	
1 2 6	- 二人以上の妻がいる場合、夫はどのように妻たちに対応すべきか？	
(8)	離婚	118
1 2 7	- イスラームでの離婚とは？	
1 2 8	- 夫の離婚宣言の方法は？	
1 2 9	- 離婚の一般的形態は？	

- 130 - その他の離婚の形態は？
- 131 - イッダとは？
- 132 - イッダの期間は？
- 133 - 夫が死亡した場合にイッダは？
- 134 - 夫が病で死期が近い時、バーイン離婚を宣言し、妻がイッダ中に夫が死亡した場合、妻は夫の遺産を相続できるか？
- 135 - イッダの意義は？
- 136 - ズィハールの離婚とは？
- 137 - ズィハール離婚の法規範は？
- 138 - イーラーウによる離婚とは。またその法規範は？
- 139 - イーラーウを4ヶ月に決めた理由は？

第六章 世界宗教者平和会議 (WCRP) 125

第七章 エッセイ (随筆) 131

第八章 日本国内のマスジド (モスク) の一覧表 139

第九章 イスラームの葬儀 147

- 1 - イスラーム社会の遺体処理は土葬
- 2 - 死亡後に施される遺体の清め「洗体」
- 3 - 遺体を白衣で包んで葬儀礼拝に備える
- 4 - 質素な祭壇が特徴的・日本的な要素も折衷
- 5 - 祭壇と遺影
- 6 - 葬儀の礼拝
- 7 - 故人を偲ぶ通夜
- 8 - 出棺、一般の葬儀にみられないイスラームの葬送習慣
- 9 - ムスリム用の墓地は日本国内に5か所
- 10 - 遺体の搬送、埋葬もムスリムの手で行われる
- 11 - 山梨・塩山 (甲州市) の霊園
- 12 - 区画の決定
- 13 - 墓穴掘り
- 14 - 遺体移動
- 15 - 土盛り
- 16 - 区画の整備
- 17 - 墓石
- 18 - イスラーム葬儀に特化した専門業者の存在

第一章

日本のイスラームの歴史

2009年福岡県福岡市に設立された Masjid の責任者から招待されて出席した。以下はその時述べたお祝いの言葉と日本のイスラームの歴史について述べたスピーチ原稿である。

アッサラーム アライクム

まず、最初に、日本ムスリム協会を代表しまして、この度の Masjid 誕生を心からお祝い申し上げます。

九州の中心地である福岡に、このような立派な Masjid が建設されたことは、日本のイスラーム史に新たな 1 ページが開られたことでもあります。Masjid があることは、その地域のイスラーム教徒にとってはこの上ない喜びです。

今後、かれらの祈りの場、交流の場、さまざまな活動の場として、この福岡 Masjid は利用されることになるでしょう。そしてイスラーム教徒でない人達にとっても、イスラームの宗教、文化、社会を知ることが出来る貴重な場所になるでしょう。

Masjid の建設については次のようなハディースすなわち「預言者ムハンマドの言行録」があります。「Masjid を造った者に対し、アッラーは天国でそれと同じものをかれのためお造りになる」。このようにアッラーは Masjid を造る者を高く評価されています。

この新しい福岡 Masjid から発信するイスラームおよびイスラーム文化の精神が、福岡の街を中心として、九州全体に広がっていくことを祈願しています。

本日は本当におめでとうございます。

さて、これから日本のイスラームの歴史について、簡単にお話させてい

たきます。

イスラームが日本で最初に紹介されたのは、1713年に出版された新井白石の著書「采覧異言（さいらんいげん）」だと言われています。徳川時代の学者新井白石は、その本の中で当時の世界の地理、歴史、風俗、産物などを記述し、イスラーム文化についても触れています。次に、日本人初のイスラーム教徒についてです。日本人が初めてイスラームに入信したのは、1892年にトルコで入信した山田寅次郎と言われています。山田寅次郎は明治時代の実業家であり茶道の家元でもありました。彼の入信したきっかけとなったのは、1890年に和歌山県の紀州沖で起きた、オスマン帝国軍艦エルトゥール号の暴風雨による沈没、遭難事故でした。この事件で609人中540人が犠牲となり、69人は地元の人たちにより救助されました。この事件が日本中に大きな衝撃を呼ぶと、当時24歳の山田寅次郎は犠牲者の遺族に寄付金を与えるため、日本中を演説して回り、2年間かけて今日の2億円相当分を集めました。寄付金を集めた年の1892年、山田寅次郎はこの義捐金を持ってイスタンブールへ行き、現地の人々から熱烈な歓迎を受け、皇帝アブドルハミト2世に拝謁する機会に恵まれました。彼は皇帝から依頼され、士官学校での日本語教育などをして、しばらく滞在しているうちに、トルコに愛着を覚え、イスラームに入信したようです。また同じ頃、トルコでイスラームに入信した野田太郎と言う人物がいたとも言われています。

山田寅次郎が入信した頃、25歳の有賀文八郎が貿易会社の社員としてインドのボンベイを訪れました。キリスト教徒であった有賀はイスラームの実際を目撃し、それ以後、40年間に亘り一神教の比較研究を行い、60歳で実業界を引退してから、イスラームに入信し、イスラームの伝道

に余生を捧げました。

日本人で最初にメッカ巡礼をしたのは山岡光太郎です。かれは東京外国語学校ロシア語を卒業しましたが、その年の日露戦争勃発により、ロシア語通訳として帝国ロシア軍の情報収集に従事したようです。インドのボンベイでムスリムとなり、タタール人のアブドル ラシード イブラーヒームに同行し、1910年にメッカ巡礼を行なっています。

また拓殖大学を卒業し、日露戦争時に中国語通訳として活躍した田中逸平が、1924年に中国山東省のマスジドで入信しました。そして、その年にマッカ巡礼を果たしました。彼は1933年にも2度目の巡礼を行い、サウディアラビアのアブドルアジーズ初代国王に拝謁する機会を得ています。

このように明治時代に、海外のイスラーム社会で強い影響を受けた日本人、また政治的な影響を受けた日本人がイスラームに入信しています。

1917年、ロシアに革命が起きると、多数のタタール人イスラーム教徒が亡命して日本に移住して来ました。彼らは日本社会に根を下ろし、日本のイスラームの発展に寄与しました。

昭和時代に入ると1931年、日本初のマスジドが名古屋に建設されました。また1935年、神戸に神戸回教寺院、1937年東京に東京回教礼拝堂が建設されました。

またその頃、いくつかのイスラーム関連団体が現われました。たとえば1938年、大日本回教協会が設立されましたが、その活動目的は、敗戦までのアジアのイスラーム教徒対策や文化工作、イスラームの調査・研究でした。このようにイスラーム関連団体が設立された背景には、日本のアジア進出という軍事的目的があったようです。

イスラーム教徒の最初のイスラーム団体が1952年に東京に設立されました。第二次大戦後、東南アジアの戦地にてイスラームの教えに惹かれて入信した人や、戦略としてイスラーム教徒になった人たちが中心となって設立しました。それが現在の日本ムスリム協会の前身です。

1981年には、在日外国人が主体となって運営するイスラミック・センターが湾岸諸国の援助によって東京に、設立されました。

日本ムスリム協会は1952年に設立以来、日本人にイスラームを紹介するため、イスラーム諸国と日本との友好親善促進のため、会員の相互扶助をするため、いろいろな活動を行ってきました。中でもクルアーンやハディースなどイスラームの本の翻訳・出版事業、イスラーム学習会や講演会、アラビア語授業、入信者の指導などに力を入れてきました。

またイスラームを学ばせるため、若いイスラーム教徒をイスラーム諸国に派遣してきました。エジプトのアズハル大学には1957年から継続的に若者を派遣しました。1970年代に入ると産油国サウディアラビアやカタールへ留学生を派遣するようになり、さらにイラン、インドネシア、マレーシアへと派遣先を拡大していきました。これらの留学生たちは帰国後、日本ムスリム協会の中核となり、協会を運営しています。日本ムスリム協会からイスラーム諸国に派遣された留学生の数は80名近くなります。

1972年には、長年の念願であった日本人イスラーム教徒の手による「日本語・アラビア語対訳クルアーン」が日本ムスリム協会で刊行されました。

ところで日本人のイスラーム入信への動機ですが、1960年代、70年代に日本人がイスラームに入る契機となったのは、主にイスラームの歴

史や文化の学習、アラビア語学習またはイスラーム圏への留学や旅行を通して、イスラームに魅了されたことでした。また1980年代半ばから、外国人就労者との結婚を契機として入信する機会が増えてきました。日本の好景気と相まって、イランやパキスタンなどから多くのイスラーム教徒の労働者が日本にやって来ました。かれらの一部の人達は日本人と結婚し、日本社会のなかでイスラームの家庭を築き、また自分達のイスラーム社会を築いていきました。

日本国内のイスラーム教徒とそのイスラーム団体の数ですが、1970年頃は日本人イスラーム教徒は2000人、外国人イスラーム教徒は1500人、イスラーム団体は4団体であったと言われています。現在は約10万人のイスラーム教徒が日本にいますと言われています。日本人イスラーム教徒はそのうち10%で約1万人と思われます。今日、イスラーム団体は約35団体あります。

イスラーム教徒にとって大切なマッカ（メッカ）巡礼については、近年日本からのマッカ巡礼者が徐々に増えています。1960年以降、日本ムスリム協会関係者だけでも約80名がマッカ巡礼を果たしています。

礼拝所につきましては、現在日本全国で大小合わせて50箇所以上あると思われます。特に1990年初頭から、日本で事業に成功した外国人ムスリムが中心となって礼拝所を次々と造っています。それはひと部屋のものから、 Masjidとしての形と機能を整えているものまで、様々です。現在、Masjidと名前がついている礼拝所は全国で約30ヶ所になりました。

この福岡Masjidがその活発な活動を通して、日本のイスラームの歴史に大きく深く刻まれていくことを確信しています。

以上簡単でありましたが、日本のイスラームの歴史について述べさせて

いただきました。

ご清聴有難うございました。

アミン 徳増公明